

遠望近思

令和5年3月27日発行（第70号）

全ては「子供たちのために」 全ての「子供たちのために」
東松山市教育委員会教育長職務代理者 稲垣 孝章

「ちょっと待って。Bさんが首を横に振っていたよ。」

これは、千葉県で小学校2年生の学級会の授業を参観した折に聞いた子供の発言です。

この発言は、見るからにおとなしそうな黒板記録の男の子が発したものです。

その話し合いは、ある遊びに決まりかけていました。司会者が「この遊びでいいですか。」と全員に聞いたところ「いいです。」と大きな声が聞こえました。私もこれで決定するものと思っていた時の発言が冒頭の言葉です。結局、再度その内容について話し合い、全員が笑顔で遊びを決定している様子を観て、その温かな雰囲気には私は目頭が熱くなりました。

その学級には、教師の教育理念として、全員の子供の考えを大切にしたい、誰一人いやな思いをさせたくない、という考え方が子供たちの中に浸透しているように感じました。

そして、子供たち同士で協働して話し合いを展開していこうとする支持的な風土が醸成されていると思いました。その学級経営の基盤は、まさに「令和の日本型学校教育」の構築を目指した「全ての子供たちの可能性を引き出す『個別最適な学び』と『協働的な学び』」の実現に資するものであると感じました。

教師と子供の信頼関係は教育の基盤です。しかし、教師の適切な指導の下、「子供同士のよりよい人間関係を築くこと」が今、まさに求められているのではないのでしょうか。

いじめ問題も、教師の目の届かないところで、子供同士の中で起こってしまいます。

子供には、自分のことを理解し、寄り添ってくれる教師の存在が不可欠です。そして、子供が学校に行く楽しさは、教科の学習で新たな学びを実感することと同時に、友達との語り合いなどの豊かな学級生活の中にあるのだと思います。

令和4年12月に発表された改訂版生徒指導提要に「生徒指導の実践上の視点」として示された次の四つの内容は、学級経営において基盤となる視点です。

- | | |
|---------------|-----------------|
| (1) 自己存在感の感受 | (2) 共感的な人間関係の育成 |
| (3) 自己決定の場の提供 | (4) 安全・安心な風土の醸成 |

東松山市内の全ての先生方が「全ては子供たちのために、全ての子供たちのために」との教育愛に満ちた教育活動を推進されることを切に願っています。吉澤勲教育長を中心とした教育委員会事務局職員は、全力で先生方を支援していくものと確信しています。

東松山市内の全ての学級で、同調圧力として他の発言に流されることなく、冒頭の発言のように「ちょっと待って」と、誰一人取り残さないような、友達への心温まる言動が広がっていくことを心より期待しています。

また、本誌の内容は東松山市のホームページにも掲載しており、
右の二次元コードからアクセスすることができます。

→→→→→



東松山の学習指導スタンダード(改訂版)の研究

1 東松山の学習指導スタンダード（改訂版）の背景

本市では、平成26年度に授業の基礎・基本となる事項を「東松山の学習指導スタンダード」としてまとめ、先生方に授業力向上のためのバイブルとしてご活用いただきました。

この度、学習指導要領の改訂を受け、主体的・対話的で深い学びを中心に、東松山の学習指導スタンダード（改訂版）」を作成しました。

全ての子供が「分かった」「楽しかった」「できるようになった」と言えるように全力で授業力向上に取り組んでいきましょう。

目次

東松山の学習指導スタンダード
(改訂版)の目次となります。

○発刊によせて・・・・・・・・・・・・・・・・	
○主体的・対話的で深い学びで資質・能力を育成・・・・・・・・	p.2
○主体的な学びのために・・・・・・・・	p.3
○対話的な学びのために・・・・・・・・	p.4
○深い学びのために・・・・・・・・	p.5
○主体的・対話的で深い学びはよりよい学級経営から・・・・・・・・	p.6
○授業の「ねらい」はゴールです・・・・・・・・	p.7
○よい発問が授業を変える・・・・・・・・	p.8
○話し方や立ち位置の達人に・・・・・・・・	p.9
○板書を見れば授業がわかる・・・・・・・・	p.10
○机間指導は目的をもって・・・・・・・・	p.11
○子どもの発言を引き出すには・・・・・・・・	p.12
○「間違い」は本当に「間違い」なの？・・・・・・・・	p.13
○ノート指導で学力アップ・・・・・・・・	p.14

主体的・対話的で深い学びで資質・能力を育成

学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて、「何ができるようになるのか」という変容（伸び）の観点から育成する資質・能力が、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」に整理されています。この資質・能力の育成のために「何を学ぶか」という内容と、「どのように学ぶか」という姿が学習指導要領では示されており、この姿が「主体的・対話的で深い学び」です。

「主体的・対話的で深い学び」の主語は「子供」です。このことに留意し、学習者と指導者の両方の視点で授業改善を行うことが大切です。教材研究や研究協議などの際には、どの観点で授業改善を図ろうとするのか下図で確認しましょう。

育成を目指す資質・能力「何ができるようになるか」

生きてはたらく！

知識及び技能

未知の状況にも対応！

**思考力・判断力
・表現力等**

人生や社会に生かす！

**学びに向かう力
・人間性等**

学習内容

「何を学ぶか」
を明確にして

主体的・対話的で深い学び
「どのように学ぶか」

主体的な学び

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

→ 3ページ参照

対話的な学び

学び合い等、他者と協働することによって、自己の考えを広げ深めること

→ 4ページ参照

深い学び

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

→ 5ページ参照

信頼関係に基づく学級づくり「授業づくりと学級づくりは両輪」

子供たち一人一人のよさをとらえ、学級の人間関係を豊かにし、コミュニケーション能力を高めることで、各教科等の授業において主体的・対話的で深い学びの実現につながります。

→ 6ページ参照

子供たちの主体的な学びを引き出すためには、学習に興味関心や見通しをもたせたり、活動を振り返って次につなげたりすることが大切です。ここでは、主に授業の導入と終末に視点を当てて、ポイントを紹介します。また、授業は、指導者としての視点と学習者としての視点で組み立てることが必要です。授業の前に「自分が受けたい授業か」と子供の立場で考え、改善につなげていくとよいでしょう。

導入でのポイント

1 「めあて（課題）」が明確になっている

(1) 興味関心意欲を喚起するために。

→ 疑問・驚き・希望・意欲などが、心の中に湧きだすような工夫した導入を行う。

「なんだろう？困った。解決したい！」

(2) 見通しをもって課題に取り組めるように。

→ 予想・日常生活からの体験・解決方法などを子供たち自ら考え始めるような問いをする。

「今日はこれができるかな。」

(3) 課題解決が日常生活で使える生きる力へと結びつくように。

→ 自分の生活や将来とつなげた目標をもてるような導入を行う。

「これは便利！できたら楽しそう！生活に役立ちそうだ！」

2 学習の過程がはっきりしている

(1) 『問題→それを解決する課題→課題』を自分事としてとらえ、自力や仲間と共に挑戦できるようにします。

(2) 『解決→まとめ→実践→振り返り』。このような学習の過程を確立し、見通しがもてるように展開して子供たちが安心して分かりやすく学習に取り組めるようにします。

3 成功体験につながるポイントを押さえる

主体的に学習課題に取り組むためには、「やってみよう」「これならできそう」と心から思わせることが大切です。その際、既習内容を活かして課題解決できるように、場を工夫したりヒントを用意したり、注意点に気づかせたりと、成功につながるポイントを児童から引き出し押さえていきます。自らの活動を成功体験につなげ、達成感と充実感を味わわせることで、学習意欲を生み、主体的に学ぶ力が育成されます。



終末でのポイント

1 子供の考えを生かしてまとめる

授業では子供の主体的な課題からスタートし、常にその課題を意識しながら、活動を進めていきます。まとめでも教師が一方的に知識を押し付けるのではなく、児童が学習活動を通して得た学びをもとに学習内容のまとめます。例えば、子供のつぶやきや話し合いを板書に残していくと、視覚的にもまとめにつながりやすくなります。

2 その日の学びを振り返らせる

自分は「何がわかったのか」「何ができるようになったのか」「考えがどう変わったのか」など、学びの内容とともに学び方や成長にも視点を当てて授業を振り返らせることで主体的な学びを一層深めます。さらに自己効力感が高まることで、確かな学力へもつながりやすくなります。

3 新たな学びに目を向けさせる

授業を振り返る際、「さらに知りたいこと」「もっとやってみよう」「疑問に思ったこと」などの視点をもたせることで、次の学習課題を自ら生み出すことができます。授業では、本時の振り返りが、そのまま次時の課題になることもあります。

「対話的な学び」（子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること）を行い、グループ学習やペア学習をすることは、学びを深める有効な手立てです。

対話的な学びを通して、何を学ばせたいかを明確にし、指導計画、単元への位置づけなどをしましょう。計画的に話し合いを取り入れていくことが大切です。

話し合い活性化のポイント！

グループ学習をする【必然性】をもたせよう

- ① 考えや情報を伝え合うために
- ② 問題の答えを求めたり解決したりするために
- ③ 多くの考えや発想を求めるために
- ④ 目的に向けて意見や方向性の統一をするために
- ⑤ 友達の考えに触れ、思考力を高めるために
- ⑥ よりよい解決方法を検討し導き出すために

必ずしも話し合いになっていない場面

- ▲「教える→教えられる」の関係になっている。
⇒ 一方的に教える ≠ 学び合い
- ▲「時間があるなら他の考えも出さない。」と言う。
⇒ 目的をもたず考えを広げても、深まらない。
- ▲「せっかく考えたのだから」と全班が発表する。
⇒ 同じようなことを何度も聞くと子供たちは飽きてしまう。発表させる班を絞り、授業の本筋に沿った発表を促し、意図的に学習を深めたい。
- ▲ なかなか話し出せない子がいる。
⇒ 話し合いをする前に自分の考えをメモするなど、最初の考えを少しずつ書けるようにする。

どんな形態で話し合う？【目的に応じた場の形・人数とメリットについて】

2人組で話し合う

- ・ 気軽に意見が言えたり相談したりできる。
- ・ 自分の考えを一度説明することで自信をもつことができる。
- ・ 自分と違った友達の考えに気付くことができる。

3人組で話し合う

- ・ 客観的に聞く人、話を整理する人、話を深めるために質問する人、聞く人など役割ができる。

4人以上で話し合う

- ・ 2人の時より話し合いが深まる。
- ・ より深い討論を行える場合がある。
- ・ 司会者や記録者をおいて話し合いを進めることができる。
- ・ 課題が難しい場合にも解決の糸口が見つかりやすくなる場合がある。
- ▲ 発言する子、聞くだけの子と、偏ってしまう場合がある。

上記は一例です。低学年や話し合いに慣れていないときは3人組が話しやすいです。その課題や場面に応じてメリット・デメリットが出てきます。大切なことは、なぜその人数で話し合うのか教師が意図をもったうえで、子供たちに活動させることです。

★机の並べ方の例…話し合う内容や人数に応じて、机の形を工夫しましょう。

3人の例



4人の例



全員が考えられ、進んで意見を言いたくなる話し合いへ

○ その話題、話し合えますか？

例えば「一般相対性理論について話し合おう」と言われても、話し合いの前提となる基礎知識がなければ、深い話し合いにしていくのは難しいでしょう。子供たちの話し合いでも、話題の土台となる知識を共通してもっているか考え、テーマを設定しましょう。

○ おもしろい課題とは？

思考の深化を促し、子供から議論が巻き起こるような課題設定をしましょう。主体的な学びの課題設定も参考に「話し合いたい」「話し合う必要がある」という課題を引き出せるとよいでしょう。

○ もっと活発に意見を言うには？

楽しい活動を決める学級会や、クラスを二分する白熱する話題の討論など、生活のなかで活発に意見が出し合える活動を重ね、話し合える雰囲気とスキルを身に付けましょう。

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精選して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考え、思いや考えを基に創造することに向かう「深い学び」の実現を図ることが大切です。「深い学び」とは、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、今日の学習内容を過去に学んだことや未来に学ぶことにつなげていきます。過去に学んだこととは、同じ教科で学んだことはもちろん、他教科で学んだことでもあります。同様に、未来に学ぶこととは、同じ教科で学ぶことはもちろん、他教科で学ぶことでもあります。また、教科以外の学校行事や課外活動、家庭生活、将来の社会生活に広げていくことも「深い学び」につながります。

深い学びにつなげるポイント

1 発問の仕方を工夫し、考える視点をもたせる

必要感のある課題の設定をする。思考の活性化を図る課題設定を行う。なぜだろう？と考えさせる問いかけをする。繰り返しの活動の中で、問い返し、考えさせるよう、意識して発問をする。また、整理、分類、関連付け等、視点を明確にした、活動を行う。

2 思考を可視化するための場の設定

知識や技能の適用場面を設定する。質の高い気づきを得るための学びを実現できるよう場の設定を工夫する。思考を可視化し、学びを深めるためのツールの活用を考える。可視化されることで児童・生徒自身が思考を整理・分類・関連付けることができる。

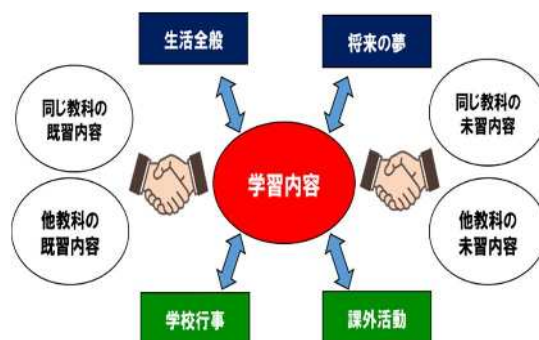
3 考えを深め、広げる時間の確保

既習内容や経験と関連付けた思考の促進を行う。思考を表現し、考えを深め広げる時間を確保する。学習を通して得た新たな気づきや更なる理解について自分の言葉で、振り返りをする時間をつくる。学びの振り返りを充実させることで、自分自身を振り返るよう工夫する。

例えば、中学2年の数学の『図形の調べ方』では…、既習事項である「平行線の性質」を用いて、多角形の内角の和や外角の和について証明していきます。また、それらの性質を発展させ、いろいろな角の求め方についても学習し、自分の求め方を、根拠をもって説明できるように学習していきます。

これらの性質を根拠にして図形の性質を証明していきますが、証明をするには、「筋道を立て、結論を明確にしていく（仮定→根拠→結論）」必要があります。

このことは国語での「読む力」（説明文の読解）や、「話す力・聞く力」「書く力」（論理的に説明する）と深く関わっていきます。そして、国語で学ぶこれらの力は、生徒自身の社会生活でのコミュニケーション活動にも大きく関わってくるものです。教科担任制の中学校では、教師が自身の専門教科にとどまらずに教科を横断的に捉えて生徒に働きかけをし、学んだことの活用場面に気づかせることが大切です。



授業で児童・生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、学級経営を充実させることが大切です。そのためには、「学習のきまりをつくる」「教師と児童・生徒の信頼関係を築く」「児童・生徒同士の信頼関係を築く」という3つのポイントを大切にしましょう。

○学習のきまりをつくる

学習のきまりを確立することは、規範意識を高めることにもつながります。子供たちの規範意識を育むためには、発達段階に応じて、日常生活の具体的な場面や社会生活におけるきまり、ルール、約束などを示しながら学んでいくことが大切です。

「いつでも」「どこでも」「だれでも」守れるように定着させていきましょう。そのためにきまりの意味を伝えたり、きまりがあることのよさを実感させたりすることが大事です。また、必要に応じて子供たちときまりを作っていくこともよいでしょう。

<きまりの定着を図るポイント>

- ・児童・生徒と決めたままりを掲示し視覚的に働きかける。
- ・禁止より達成型のきまりにする。（「～しない」→「～しよう」）
- ・きまりを守れている児童・生徒を認める。



○教師と児童・生徒の信頼関係を築く

学級経営の要となってくるのは、教師と児童生徒との関係です。信頼関係をつくるためには児童・生徒一人一人に関心を示し、積極的に関わり児童生徒の理解を深めることが大切です。そのために、肯定的な受け止めや言葉がけをしたり、問題行動を起こした時には児童・生徒自身ではなく行動や振る舞いを指摘したりする必要があります。

<信頼関係を築くための工夫・活動例>

- ・どの児童・生徒にも、一日一回は関わる。
→提出物を受け取る際のアイコンタクトや帰りに一人一人送り出すなど小さな積み重ねを大切に。
- ・肯定的な言葉がけをする。
→リフレーミング（物事を見る枠組みを変えて、違う視点でとらえ、ポジティブに解釈できる状態になること）の活用や積極的に児童・生徒の名前を呼んで言葉がけをする。
- ・一人一人と短い時間での面談をする期間を設ける。
→面談では教師の思いを伝えるだけでなく、児童・生徒の思いをしっかりと聴き受容する。

○児童・生徒同士の信頼関係を築く

主体的、対話的に学習に取り組むためには児童・生徒同士のよい関係づくりは欠かせません。そのために、児童・生徒同士がお互いを受け入れたり、認め合ったりする場を積み重ねることが大切です。関係が良好になると学習でも協働して学ぶ場面が増え、主体的・対話的で深い学びを実現することができます。

<児童・生徒同士の関係づくりの工夫・活動例>

- ・学級目標や行事等を通して共通のめあてを協力して達成する機会を設ける。
- ・帰りの会・ホームルームなどでお互いのよいところを伝え合う活動をする。
- ・児童・生徒同士の「聴くこと」を大切にする。
- ・諸活動の前や途中にアイスブレイクを取り入れ、気持ちをほぐし温かい雰囲気醸成する。

学習用端末活用チェックシート

～文房具のように活用するために～

1. 学習用端末活用チェックシート作成の背景

現在、GIGAスクール構想によって整備された1人1台端末等を活用した学習活動が、各学校で定着しつつあります。これからは、児童生徒1人1人が学習用端末を文房具の1つのように使いこなし、その活用がより一層促進されることが求められます。そこで、児童生徒がどのような操作ができるのかを明確にすることで、児童生徒や教職員にとって目指すべき姿がはっきりとし、目標を定めて活用していくことができると考え、「学習用端末活用チェックシート」を作成しました。

【小学生用】					
このチェックリストは小学校で身に付けてほしい基本的な操作項目について示しています。					
「できる」を4点、「ややできる」を3点、「あまりできない」を2点、「できない」を1点とし、項目毎にチェックしてください。					
学年が上がるごとに平均点が向上することを目指してください。					
番号	操作項目	4点	3点	2点	1点
1	電源の ON/OFF ができる				
2	画面のタップができる。				
3	画面の拡大（ピンチイン）や縮小（ピンチアウト）ができる。				
4	キーワード検索ができる。				
5	手書き入力ができる。				
6	音声入力ができる。				
7	1分間に25字程度でローマ字入力ができる。				
8	リフレッシュキーを使って再起動ができる。				
9	ショートカットキーを使うことができる。				
10	カメラアプリを使って写真を撮ることができる。				
11	二次元コードを読み込むことができる。				
12	カメラアプリを使って撮った写真を保存すること、保存した写真をフォルダから展開することができる。				
13	自分で作成したものに名前を付けて保存することができる。				
14	NHK for schoolで学習に必要な動画を検索し見ることができる。(まなびポケット)				
15	スクールタクトで写真を使った作品を作成し、提出できる。				
16	自分で作成したものをフォルダに分けて保存することができる。				
17	ドキュメントで文章を作成することができる。				
18	ドキュメントでフォントを変えたり文字の色を変えたり枠や線を作成したりできる。				
19	ドキュメントに画像や動画を貼り付けることができる。				
20	スプレッドシートで簡単な計算をすることができる。				
21	スプレッドシートを使って、資料を作成することができる				
22	スライドを活用して、プレゼンテーションをすることができる。				
23	スライドを使って、プレゼンテーションに必要な資料を作成することができる。				
24	Formsを使ってアンケートの作成ができる。				
25	GoogleMapで目的地を探したり道を調べたりできる。				
26	Jamboardで付箋を使うことができる。				
27	撮影した画像をギャラリーから編集・加工できる。				
28	ペイントソフトを使ってお絵描きができる。(chrome描画キャンパス)				
29	共有ドライブにアップロードできる。				
30	二次元コードを作成することができる。				
31	Googlemeetでオンライン通話することができる。				
32	Googlemeetで音声や映像の入切ができる。				
33	Googlemeetで挙手やチャット機能を使うことができる。				
34	Googlemeetで画面のレイアウト変更や中心にする画面のピン留めができる。				

新年度にチェックし、その後、学期末ごとにチェックすることで、児童生徒の活用力の変化を把握するなどの活用方法が考えられます。

【中学生用】
 このチェックリストは中学校で身に付けてほしい基本的な操作項目について示しています。
 「できる（あてはまる）」を4点、「ややできる（ややあてはまる）」を3点、「あまりできない（あまりあてはまらない）」を2点、「できない（あてはまらない）」を1点としチェックしてください。
 学年が上がるごとに平均点が向上することを目指してください。

番号	操作項目	4点	3点	2点	1点
1	タップやクリックができる。				
2	ローマ字入力の方法がわかる。				
3	キーワード検索ができる。				
4	NHK for schoolなどの教育用動画サイトで学習に必要な動画を選び、視聴できる。				
5	カメラアプリを使って写真を撮ることができる。				

教職員用のチェックシートも作成し、児童生徒だけでなく、教職員の活用能力の向上を目指します。

【教員用】
 このチェックリストは教員用に操作項目を示したものです。
 「できる」を4点、「ややできる」を3点、「あまりできない」を2点、「できない」を1点としチェックしてください。
 年々平均点があるよう操作技術を向上させていきましょう。

番号	操作項目	4点	3点	2点	1点
1	クラスルームを作成することができる				
2	コードを指示してクラスルームに参加させることができる				
3	クラスルームで課題が配信できる				
4	クラスルームをアーカイブすることができる				
5	モニターにタブレットの画面を映し出すことができる。(画面のミラーリング)				
6	ミーティングを開始できる				
7	ミーティングで画面共有ができる				
8	二次元コードを読み取るための指導ができる。				
9	二次元コードを作成する指導ができる。				
10	リフレッシュキーを使って再起動ができる				
11	学びポケットのスクールタクトを活用して、児童・生徒の考えを共有することができる。				
12	e-boardを使って宿題を出すことができる。				
13	ショートカットキーを使うことができる。				
14	ドキュメントの活用について指導できる				
15	Jamboardの活用について指導できる				
16	スライドの作成について指導できる				
17	キーボードの最上段のキーを使うことができる。				
18	Formsを使ってアンケート・小テストを作成できる				
19	Formsのアンケートや小テストの結果をスプレッドシートで集約できる				

6	カメラアプリを使って撮った写真を紹介することができる。(アプリをとじた後に再度画面上に表示する)				
7	撮影した画像を切り取り、画像に線を引いたりできる。				
8	ペイントソフトを使ってお絵描きができる。				
9	ドキュメント(ワード)・スプレッドシート(エクセル)・スライド(パワーポイント)がそれぞれ何用のソフトなのかわかる。				
10	文字入力スムーズにできる。(自己判断)				
11	ドキュメント等の既存の文章に線をひく。				
12	ドキュメントで文書が作成できる。				
13	自分で作成したものに名前を付けて保存することができる。				
14	ドキュメントに画像や動画を貼り付けることができる。				
15	ドキュメントやスプレッドシートで フォントを変える →着色→枠や線、表にすることができる。				
16	自分で作成したものをフォルダに分けて保存することができる。				
17	プレゼンテーションソフト(スライド)を使って、プレゼンテーションに必要な資料を作成することができる。				
18	ctrl+cなどの基本的なショートカットキーを使うことができる。				
19	共有ドキュメントにアップロードできる。				
20	スプレッドシートを使って、資料を作成することができる。				
21	表計算ソフトで簡単な計算をすることができる。				
22	著作権・肖像権について理解している。				
23	ネットにある情報は誤った情報があることを理解している。				

2. 今後の方向性

今回作成した「学習用端末活用チェックシート」については、来年度以降、市内各小・中学校で活用をすすめ、よりよいシートとなるよう、内容等について精査していく予定です。

また、本シートは東松山市のホームページよりデータをダウンロードすることができます。二次元コードをカメラで読み取ってください。さらに、教職員の負担軽減を図るため、Google Formsにより簡単に入力・集計ができるようになっています。自校で活用する際には、コピーをしてからご使用ください。

*東松山市
ホームページ



*Google Forms

【小学校用】



【中学校用】



【教職員用】





令和4年度東松山市学校教育研究推進委員

東松山学習のスタンダードの見直しの研究

	氏名	所属
委員長	木村 博幸	東中・校長
委員	山本 陽平	唐子小・教諭
委員	八木原 実穂	高坂小・主幹教諭
委員	鎌田 美穂	野本小・教諭
委員	関根 正憲	青鳥小・教諭
委員	権田 尚岳	新宿小・主幹教諭
委員	小高 知成	市の川小・教諭
委員	小熊 亜希子	南中・教諭
委員	石原 冬樹	白山中・教諭

学習用端末の活用の研究

	氏名	所属
副委員長	細野 敦	桜山小・校長
委員	田辺 拓也	松山第一小・教諭
委員	浅見 雄大	松山第二小・教諭
委員	星野 勇	新明小・主幹教諭
委員	長谷 隆志	大岡小・教諭
委員	本木 一成	桜山小・教諭
委員	矢倉 聡美	松山中・教諭
委員	田辺 悠妃	東中・教諭
委員	吉岡 正憲	北中・教諭